

清瀬市の わかりやすい決算書

～清瀬市のまちづくり報告書～



平成29年度決算

目 次

◇ 決算とは？	1
◇ 歳入の状況	2
◇ 歳出の状況	3
◇ 歳出【目的別】	4
◇ 歳出【性質別】	5
◇ 平成 29 年度の主要事業	6
◇ 決算の特徴	12
◇ 積立金現在高の状況	13
◇ 財政指標	14
◇ 借金と将来負担	16
◇ 人件費削減の取組	19

表紙の写真

平成 29 年に開催された清瀬ひまわりフェスティバルの会場で、撮影されたひまわりです。

広大な農地に 10 万本のひまわりが咲き誇り、その中で中心部分がハートの形をしている珍しいひまわりの写真です。

決算とは？

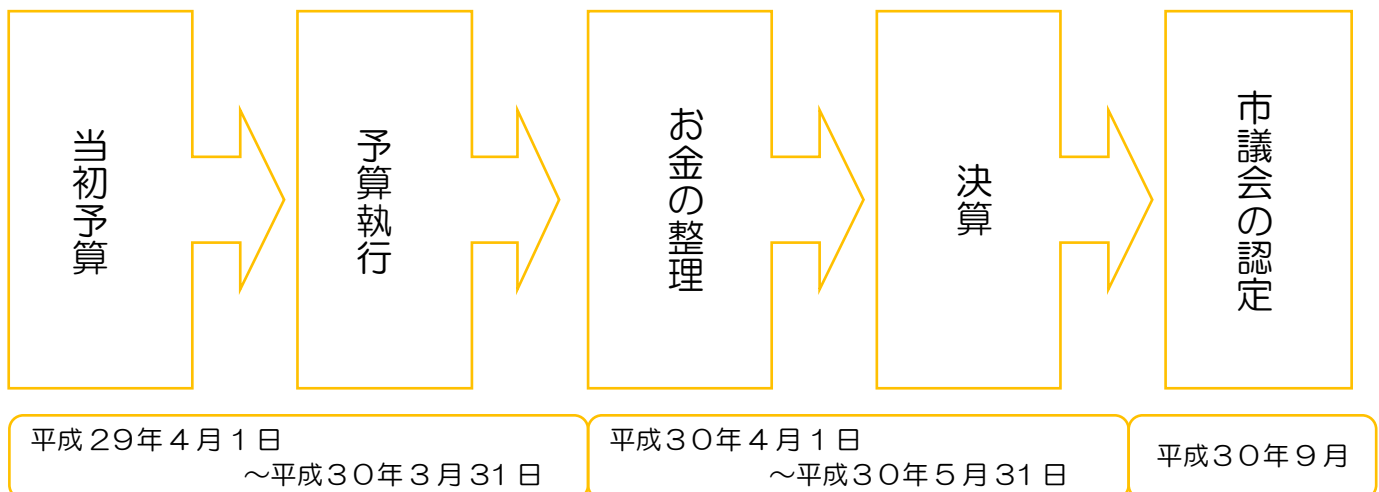


そもそも決算とは何でしょうか？



新しい年度が始まる前に、1 年間（4 月から翌年 3 月まで）にどのくらいの収入があるか、その収入をもとにして、どのような行政サービスを行うのかを計画し、その支出を見積ったものが予算です。それに対して決算とは、1 年間にどれだけの収入があつて、その収入をどんな使い道でどれだけ支出したのかを示したものです。また、市役所では一般企業や家庭で言う「収入」、「支出」のことをそれぞれ「歳入」、「歳出」と言います。

◆決算までの流れ（平成 29 年度決算認定までの流れ）



清瀬市の決算は黒字？赤字？



会社の決算においては黒字か赤字かで業績を判断していますが、市役所はどのようなのでしょうか？



市役所において黒字または赤字は、「**実質収支**」というものから判断します。

「実質収支」＝歳入総額－歳出総額－次の年に使うことが決められている金額

実質収支がプラスなら黒字、マイナスなら赤字となります。

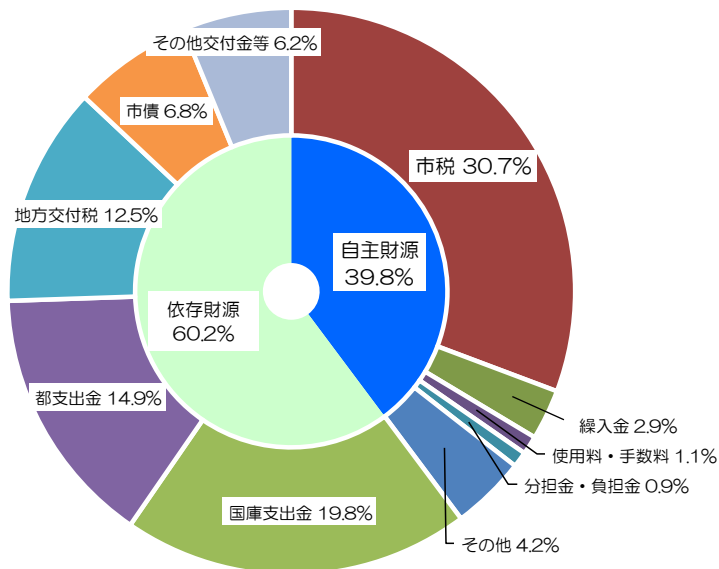
清瀬市の平成 29 年度決算においては、歳入は 309 億 3,906 万円に対して、歳出は 297 億 9,145 万円でした。差引 11 億 4,762 万円の余ったお金から、次の年（平成 30 年度）に使うことが決められている 3,808 万円を差し引いた 11 億 953 万円が実質収支となります。実質収支がプラスであることから、清瀬市の平成 29 年度決算は 11 億 953 万円の黒字ということになります。

歳入の状況



清瀬市が毎年使うお金はどのように
賄っているのでしょうか？

【歳入の構成比】



市役所の歳入は市税や使用料などの市が自主的に徴収できるお金である「**自主財源**」と国や都から交付されるお金や金融機関等からの借入れをする市債などの「**依存財源**」に分類することができます。清瀬市は自主財源よりも依存財源の方が多い市です。特に、市税が歳入額に占める割合は30.7%で多摩26市平均の44.1%を下回っており、市税収入が少ない状況です。自主財源の比率が高ければ、自由に使えるお金が多く、財政運営上望ましいとされています。自主財源の強化が清瀬市の大きな課題です。

◆一般会計歳入決算

項 目	説 明	金 額	前年度比 (増減額)
自主財源	市が自主的に決定し、徴収できる財源	123 億 1,204 万円	▲1,883 万円
市税	市民の皆さんから納めていただく税金	95 億 683 万円	1 億 1,190 万円
個人市民税	均等割と所得割から構成	44 億 58 万円	6,153 万円
法人市民税	均等割と法人税割から構成	3 億 4,665 万円	1,282 万円
固定資産税	土地、家屋、償却資産に課される税金	36 億 1,181 万円	5,037 万円
軽自動車税	軽自動車の所有者が納める税金	6,737 万円	362 万円
市たばこ税	市内のたばこ販売小売店が納める税金	3 億 6,627 万円	▲2,091 万円
都市計画税	都市計画事業等に使われる目的税	7 億 1,415 万円	448 万円
分担金・負担金	事業にかかる経費の一部を受益の程度に応じて利用者にご負担いただくお金	2 億 7,391 万円	755 万円
使用料・手数料	市営住宅使用料やごみ処理手数料など	3 億 2,729 万円	▲631 万円
繰入金	市の基金（貯金）からの取崩しなど	8 億 8,987 万円	3,320 万円
財産収入	市有の土地などの売却収入	1,305 万円	▲1 億 7,676 万円
その他	寄附金や前年度からの繰越金など	13 億 109 万円	1,155 万円
依存財源	国や都から交付される財源	186 億 2,702 万円	10 億 7,466 万円
国・都支出金	市の行政サービスを行うために、国や都から交付されるお金	107 億 2,794 万円	2 億 454 万円
地方交付税	国から財政力不足の自治体へ交付されるお金	38 億 8,061 万円	1 億 2,266 万円
市債	国や金融機関等からの借入金	21 億円	6 億 4,300 万円
その他交付金等	国や都が集めた税金を各自治体へ再配分する譲与税や地方消費税交付金など	19 億 1,847 万円	1 億 446 万円
合 計		309 億 3,906 万円	10 億 5,583 万円

歳出の状況



清瀬市は平成 29 年度に何のために、どのようにお金を使ったのでしょうか？



清瀬市の平成 29 年度のお金の使い道を知るためには、2 種類の確認方法があります。

● **目的別経費**：何のためにお金を使ったか。

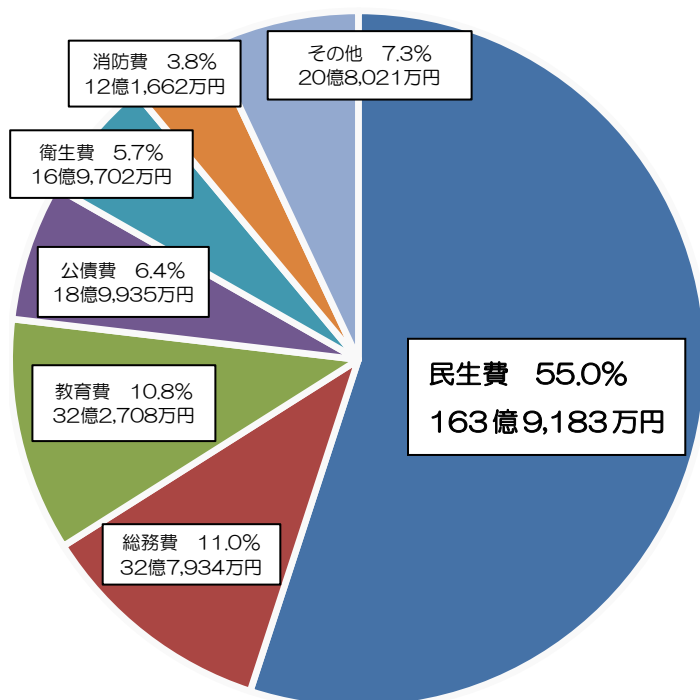
例えば・・・子育て支援のために【民生費】、けやき通りの整備のため【土木費】

● **性質別経費**：どういう用途にお金を使ったか。

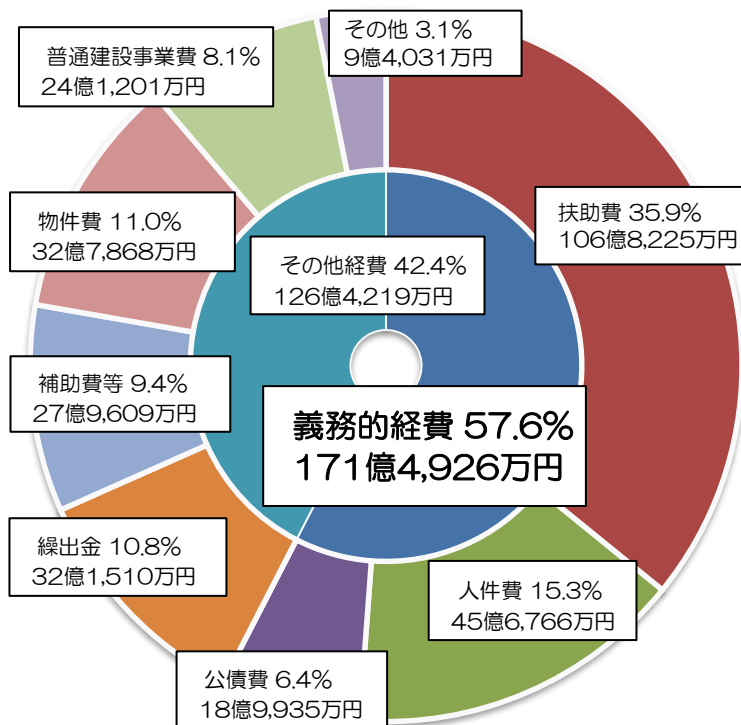
例えば・・・児童手当の給付に【扶助費】、けやき通りの枝の剪定作業に【物件費】

清瀬市の歳出は、目的別経費では、高齢化などにより民生費が全体の 55.0%と決算額の半分以上を占めているのが特徴となっています。性質別経費では、毎年必ず支出しなければならない義務的経費（人件費、扶助費、公債費）が 57.6%を占めています。義務的経費は、公債費（借金の返済）が減少しているものの、私立保育園運営費や障害者自立支援給付費などの扶助費が増加したことで、歳出全体に占める割合が大きくなっています。

【目的別歳出の構成比】



【性質別歳出の構成比】



4 ページと 5 ページで目的別経費、性質別経費がどのようなものか、またそれぞれいくら使ったのかみてみましょう。

歳出【目的別】

◆一般会計決算（目的別経費）

項 目	説 明	金 額	前年度比 (増減額)
議 会 費	議員の報酬や議会運営などにかかる経費	2 億 8,665 万円	▲81 万円
総 務 費	庁舎などの管理、市税の賦課徴収、戸籍事務など市役所の全般的な仕事にかかる経費 ★シティプロモーションの推進や新庁舎建設に向けた基本設計を策定しました。	32 億 7,934 万円	▲4,120 万円
民 生 費	障害者福祉や生活保護などの社会保障、また児童手当などにかかる経費 ★認可保育園及び小規模保育所の施設整備補助を行い、保育園等の定員が増加しました。	163 億 9,183 万円	3 億 7,755 万円
衛 生 費	予防接種やがん検診などの健康推進、母子保健、また公害防止やごみ収集などにかかる経費 ★清瀬市版ネウボラ事業「スマイルベビーきよせ」を実施しました。	16 億 9,702 万円	2,176 万円
労 働 費	労働者環境の向上や就労支援などにかかる経費 ★清瀬駅北口のクレアビル 4 階で「ふるさとハローワーク」を開設し求人情報を発信しています。	545 万円	▲62 万円
農 林 業 費	農林業の振興にかかる経費 ★10 回目の開催となる「ひまわりフェスティバル」を開催しました。	6,408 万円	▲3,856 万円
商 工 費	商工業の振興にかかる経費 ★きよせニンニクスタンプ事業を実施しました。	1 億 979 万円	2,948 万円
土 木 費	道路や公園、市営住宅の管理などにかかる経費 ★市民の安全で快適な生活を確保するため、市道 0115 号線などの道路整備を行いました。	11 億 2,612 万円	1 億 4,086 万円
消 防 費	火災、地震等の災害から市民を守るための経費 ★全小中学校で災害時の特設公衆電話回線の設置工事を実施しました。	12 億 1,662 万円	2 億 129 万円
教 育 費	小中学校の運営費、図書館や博物館などの生涯学習、文化振興などにかかる経費 ★第四小学校と第六小学校校舎の大規模改造事業を実施しました。	32 億 2,708 万円	3 億 3,693 万円
公 債 費	事業を行うために国や金融機関等から借りた市債（借金）の返済金	18 億 9,935 万円	▲1,572 万円
諸 支 出 金	他の項目に含まれない経費をまとめたもの	4 億 8,812 万円	▲5,803 万円
予 備 費	緊急に支出を必要とする場合に備えて用意しているお金	0 万円	0 万円
合 計		297 億 9,145 万円	9 億 5,293 万円

★マークは平成 29 年度に行った主な事業や近年の特徴を説明しています。

歳出【性質別】

◆一般会計決算（性質別経費）

項 目		説 明	金 額	前年度比 (増減額)
義務的経費	人 件 費	市職員の給料や市議会議員の報酬・社会保険料などにかかる経費 ★職員数・人件費の推移については19ページで詳しく説明しています。	45億6,766万円	▲2,089万円
	うち職員給与等	人件費のうち市職員にかかる経費	26億2,697万円	▲3,385万円
	扶 助 費	福祉などの生活支援及び児童手当などの給付にかかる経費 ★生活保護費や障害者自立支援給付費等の社会保障費が大きな割合を占めています。	106億8,225万円	1億7,870万円
	公 債 費	事業を行うために国や金融機関等から借りた市債（借金）の返済金	18億9,935万円	▲1,572円
	小 計	毎年必ず支出しなければならない経費	171億4,926万円	1億4,209万円
その他経費	物 件 費	物品の購入、光熱水費、委託料などにかかる消費的経費 ★新庁舎建設に向けた基本設計の策定等を行いました。	32億7,868万円	95万円
	維持補修費	施設の維持管理にかかる経費 ★市内各所の道路補修などを行いました。	3,989万円	774万円
	補 助 費 等	各種団体への補助金や一部事務組合の負担金などにかかる経費 ★幼稚園型一時預かり事業補助金が増加しました。	27億9,609万円	5,869万円
	普通建設事業費	道路や公園、小中学校校舎など、社会資本の形成にかかる経費 ★市内各所の道路整備や第四小学校・第六小学校校舎の大規模改造事業などを行いました。	24億1,201万円	8億4,020万円
	災 害 復 旧 費	大雨、暴風、地震などの災害により被災した施設等を復旧するための経費	55万円	▲894万円
	積 立 金	各種基金（貯金）への積立金 ★市庁舎の建替えや市内公共施設の整備に備え、公共施設整備基金に3億6,537万円を積立てました。13ページで詳しく説明しています。	8億8,863万円	▲1億1,471万円
	貸 付 金	奨学資金の貸付など、市が一時的に貸し出す経費	1,126万円	22万円
	繰 出 金	特別会計の収入を補うための経費 ★医療費の増加や介護サービス利用の増加により、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計などへ一般会計からお金を補填しています。	32億1,510万円	2,669万円
合 計			297億9,145万円	9億5,293万円

★マークは平成29年度に行った主な事業や近年の特徴を説明しています。

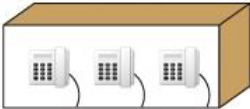
平成29年度の主要事業

① 安全でうるおいのある暮らしができるまち

消費者保護対策事業の実施（振り込め詐欺対策）		
産業振興課 ☎042-497-2052		
実施期間（自動通話録音機）H29.7.15～	事業費 501万円	
	自動通話録音機の貸し出し	66万円
	消費者生活講座講師等	19万円
	消費生活相談事例集	18万円
	その他諸経費	398万円
財源内訳		
都費		453万円
一般財源		48万円
決算説明書掲載ページ		
自動通話録音機	【歳入】51ページ	【歳出】227、229ページ
市内で高齢者に対する特殊詐欺（オレオレ詐欺や還付金詐欺等）や消費者被害を未然に防ぐため、平成29年度は65歳以上の方が居住する世帯に対し、自動通話録音機100台の無償貸出を実施しました。		

清瀬消防署建替用地の購入		
防災防犯課 ☎042-497-1847		
用地取得日 H29.7.3	事業費 1億8,925万円	
	土地・建物購入費	1億8,925万円
	財源内訳	
	地方債	1億4,100万円
	公共施設整備基金	4,000万円
一般財源		825万円
決算説明書掲載ページ		
現在の清瀬消防署	【歳入】59、69ページ	【歳出】251ページ
清瀬消防署は建築から40年以上経過しており、安全施設の維持のため、また防災及び緊急体制の機能強化を図れるよう、現在の用地に隣接した建替用地を購入しました。		

消防ポンプ自動車の購入		
防災防犯課 ☎042-497-1847		
取得日 H29.11.27	事業費 1,749万円	
	備品購入費	1,749万円
	財源内訳	
	地方債	1,700万円
	一般財源	49万円
決算説明書掲載ページ		
消防ポンプ自動車	【歳入】69ページ	【歳出】253、255ページ
清瀬市内には7つの分団があり、火災や大規模災害発生時に地域での経験を活かした消火や救援活動を行っています。清瀬第1分団の消防ポンプ自動車が、購入から法定耐用年数である15年以上経過したため、新しい消防ポンプ自動車を購入しました。		

購入避難所に特設公衆電話回線及びマンホールトイレの設置		
防災防犯課 ☎042-497-1847		
完了日 (マンホール) H30.3.16 (電話回線) H29.10.20	事業費 914万円	
 	マンホールトイレ設置工事	821万円
	避難所特設公衆電話回線設置工事	93万円
	財源内訳	
	都費	70万円
	一般財源	844万円
決算説明書掲載ページ		
マンホールトイレ／特設公衆電話回線（イメージ）	【歳入】47ページ 【歳出】255、257ページ	
地震等により生じるトイレ不足の解消のため、平成29年度は、指定避難所となる第十小学校、清瀬中学校、第五中学校に災害用トイレとして「マンホールトイレ」を設置しました。また、災害時に電話回線が繋がりにくくなった時に安否確認等の通信手段の確保を目的に、小・中学校で災害時特設公衆電話回線の設置工事を行いました。		

② 健幸でともに支え合うまち

市民健康診査事業			
健康推進課 ☎042-497-2076			
実施期間 H29.6～8		事業費 2,549万円	
	健康診断委託		2,460万円
	その他諸経費		89万円
	財源内訳		
	都費		703万円
	一般財源		1,846万円
決算説明書掲載ページ			
診察（イメージ）		【歳入】51ページ 【歳出】195ページ	
市民の健康増進のため、30歳から39歳を対象とした健康診査の実施期間について、平成28年度までは2か月間の実施でしたが、平成29年度より3か月に延長して行いました。また、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に着目した「特定健診」について、30代の市民に対しても同様の内容を無料で実施しました。			

健幸ポイント事業を実施			
健康推進課 ☎042-497-2076			
実施期間 通年		事業費 1,722万円	
 健幸ポイント wellness Point	運営等委託費		801万円
	歩数計等購入		184万円
	地域商品券		443万円
	その他諸経費		294万円
	財源内訳		
	国費		500万円
	事業参加費		15万円
	一般財源		1,207万円
決算説明書掲載ページ			
健幸ポイントイメージキャラクター「ウィンビー」		【歳入】43、65ページ 【歳出】205、207ページ	
昨年に引き続き、健康増進のための取り組みに応じて付与されるポイントを地域商品券等と交換できる「健幸ポイント事業」を実施しました。今年は対象者を40歳以上から30歳以上に引き下げ、対象人数を500人から750人に拡大して実施しました。また、ポイント交換対象品に、地域特産物を追加する等の拡充を行いました。			

③ 子どもたちを健やかに育むまち

認可保育園及び小規模保育所の開設に向けた施設整備	
子育て支援課 ☎042-497-2086	
工事完了日 H29.12.27	事業費 2億3,055万円
	中里どろんこ保育園施設整備 1億8,622万円
	小規模保育所（2園）施設整備 4,433万円
	財源内訳
	国費 5,044万円 都費 1億3,381万円 一般財源 4,630万円
決算説明書掲載ページ	
中里どろんこ保育園外観	【歳入】43、49ページ 【歳出】163ページ
待機児童対策の一環として、市内で特に待機児童が多い2歳児以下の児童を対象とした小規模保育所「あいあいちびっこルーム」及び「ちゃいるど保育園」、0～5歳児を対象とした認可保育園「中里どろんこ保育園」の開設に向けて施設整備費等に対する助成を行いました。これらの保育所開設により、保育園等の定員が増加しました。	

母子保健事業（ネウボラ事業）	
健康推進課 ☎042-497-2076	
実施期間 通年	事業費 1,217万円
	育児パッケージ等の購入 493万円
	新生児訪問等委託 271万円
	不妊・不育症治療費助成 118万円
	その他諸経費 335万円
財源内訳	
国費 148万円 都費 883万円 一般財源 186万円	
決算説明書掲載ページ	
妊娠届出時の保健師全数面接	【歳入】43、51ページ 【歳出】193、195ページ
平成29年度より、妊娠期から出産・子育て期にわたる切れ目ない支援「スマイルベビーきよせ（清瀬市版『ネウボラ』）」を実施しました。安心して子育てができるよう妊娠届を提出した妊婦を対象とした相談業務や生後4か月までの乳児がいる全家庭を専門職が訪問する「こんにちは赤ちゃん事業」等を実施しました。	

イングリッシュキャンプ事業を実施	
指導課 ☎042-497-2552・2554	
実施期間 H29.8.1～H29.8.3	事業費 160万円
	外国人講師等委託料 116万円
	立科山荘等使用料 40万円
	その他諸経費 4万円
	財源内訳
都費 61万円 イングリッシュキャンプ参加費 36万円 教育基金 30万円 一般財源 33万円	
決算説明書掲載ページ	
イングリッシュキャンプ集合写真	【歳入】53、59、65ページ 【歳出】271ページ
小・中学生の英語学習の充実を図るため、立科山荘で2泊3日のイングリッシュキャンプ事業を実施しました。抽選により選ばれた小学5年生から中学2年生の合計30名が参加しました。キャンプには外国人講師が同行し、英語を使いながらスポーツや調理などの様々な体験活動を行い、コミュニケーションを楽しみながら英語を学びました。	

小学校校舎大規模改造事業	
教育総務課 ☎042-497-2538	
工事完了日 H29.11.21	事業費 8億2,248万円
	第四小学校校舎大規模工事 3億7,601万円 第六小学校校舎大規模工事 4億3,609万円 撤去・移設費 290万円 学校備品等 748万円
	財源内訳
	国費 1億9,801万円 都費 373万円 地方債 5億7,800万円 その他収入 4,274万円
	決算説明書掲載ページ
	【歳入】43、45、67、69ページ 【歳出】285ページ
改修工事後の清瀬第四小学校 外観	
市内の小・中学校校舎は、建築後40年以上経過した建物が多く、計画的に大規模改修に取り組んでいます。平成29年度は第四小学校と第六小学校校舎の改修工事を実施しました。また、改修工事と同時に太陽光発電設備の整備を行い、教育環境の整備に取り組みました。	

就学援助費の従来基準適用とともに、新入学児童・生徒学用品費の先行支給を実施	
教育総務課 ☎042-497-2539	
実施期間 通年	事業費 9,795万円
	小学校就学援助費（給食費、学用品等） 4,679万円 中学校就学援助費（給食費、学用品等） 5,116万円
	財源内訳
	国費 113万円 一般財源 9,682万円
	決算説明書掲載ページ
	【歳入】43、45ページ 【歳出】279、291、293ページ
新入学児童・生徒学用品費の入学前支給を実施	
新小学1年生及び新中学1年生を対象に支給する「新入学児童・生徒学用品費」について、入学年度の8月に支給を行っていましたが、平成29年度より入学前年度の2月に新入学準備金として先行支給を実施し、保護者の負担軽減を図りました。また、経済的理由により支援が必要な児童・生徒の保護者に、生活保護基準の改定に伴い援助が必要な保護者が非認定とならないよう、従来の生活保護基準（平成25年4月基準）で支給認定を実施しました。	

下清戸運動公園テニスコート改修工事	
生涯学習スポーツ課 ☎042-495-7001	
工事完了日 H30.2.28	事業費 2,970万円
	改修工事費 2,970万円
	財源内訳
	都費 610万円 地方債 2,200万円 一般財源 160万円
	決算説明書掲載ページ
	【歳入】47、69ページ 【歳出】321ページ
下清戸運動公園テニスコート（B・C面）	
テニスコートが経年劣化によりコート（人工芝）が一部損傷していたため、人工芝の張替工事を行いました。工事を実施するにあたり、利用者が使いやすい施設となるよう、事前にアンケート調査を行い、西日対策としてコートの配置変更を行いました。	

④ 豊かな自然と調和した住みやすく活気あるまち

防犯灯のLED化		
道路交通課 ☎042-497-2096		
交換期間	通年	事業費 1,071円
		防犯灯LED化 1,071万円
		財源内訳
		都費 650万円
		一般財源 421万円
LED照明化された防犯灯		決算説明書掲載ページ
		【歳入】47ページ 【歳出】111ページ
市内に設置されている防犯灯について、球切れが起きた際にはLED電球に交換するとともに防犯灯が必要な場所には新たにLED電球を取り付けた防犯灯を敷設して、安全安心なまちづくりを進め、かつ、防犯灯に係るランニングコストの削減を図りました。		

ひまわりフェスティバルを開催		
産業振興課 ☎042-497-2052		
実施期間	事業費	
H.29.8.19～9.3	470万円	
	ひまわりフェスティバルへの助成	470万円
	財源内訳	
	都費	180万円
	まちづくり応援基金	60万円
	一般財源	230万円
決算説明書掲載ページ		
第10回清瀬ひまわりフェスティバル会場内にて	【歳入】47、59ページ 【歳出】225ページ	
都内最大級、24,000㎡の農地に10万本のひまわりが咲き誇る「清瀬ひまわりフェスティバル」を開催しました。10回目の開催となり、西武鉄道（株）による広告が駅構内や電車に多数掲載されたこともあり、昨年を大幅に上回る123,000人近くの方が来場しました。		

市道0115号線（六小前）の歩道拡幅等、市道5路線の道路整備工事		
道路交通課 ☎042-497-2095		
工事期間 H29.9～H30.3		事業費 1億8,511万円
	道路整備工事費	1億8,511万円
	財源内訳	
	都費	9,566万円
	地方債	7,700万円
	一般財源	1,245万円
決算説明書掲載ページ		
両側に歩道を整備した市道0115号線		【歳入】47、51、69ページ 【歳出】235ページ
市民の安全で快適な生活を確保するため、交通の基盤である道路の拡幅や損傷の激しい舗装の整備を行っています。 平成29年度は、市道0115号線（六小前）等、市道5路線の道路整備を行いました。		

けやき通りケヤキ樹高強剪定		
水と緑の環境課		☎042-497-2098
実施期間 H29.10.30~H30.3.16	事業費 1,382万円	
	ケヤキ剪定等委託費	1,382万円
	財源内訳	
	緑地保全基金	900万円
	一般財源	482万円
決算説明書掲載ページ		
樹高を低くしたけやき通りのケヤキ	【歳入】59ページ 【歳出】249ページ	
けやき通りにあるケヤキは、植樹後30年以上経過し、高木化により台風等による倒木の危険性があったため、計画的に樹高強剪定を行いました。平成29年度は128本のケヤキを樹高強剪定、倒木の危険性があるケヤキ15本を伐採しました。		

⑤ 都市格が高いまち

シティプロモーションの推進		
秘書広報課 ☎042-497-1808		
事業期間 通年	事業費 558万円	
	プロモーション動画作成	299万円
	Wi-Fi設置	87万円
	ブックカバー作成	136万円
	その他諸経費	36万円
	財源内訳	
	都費	25万円
	多摩・島しょわがまち活性化事業助成金	299万円
ブックカバー等広告料等	85万円	
一般財源	149万円	
決算説明書掲載ページ		
PR動画「つたえる」よりにんじん畑での一場面	【歳入】47、65ページ	【歳出】91、93ページ
現在、シティプロモーションの推進に取り組んでおり、清瀬市の魅力や価値を市内外へ積極的にPRしています。平成29年度は市の様々な魅力を発信するためプロモーション動画を製作し、インターネット等を通じて全国に配信しました。その他、市内公共施設にWi-Fiを導入し、災害時の活用や施設利用者の利便性向上を図りました。		

新庁舎建設に向けた基本設計を策定		
新庁舎建設室 ☎042-497-1805		
事業完了日：設計業務継続中	事業費 8,013万円	
	基本・実施設計業務	5,211万円
	設計監理支援業務	2,160万円
	執務環境基本設計支援業務	583万円
	その他諸経費	59万円
	財源内訳	
	国費	1,737万円
公共施設整備基金	4,500万円	
一般財源	1,776万円	
決算説明書掲載ページ		
新庁舎完成イメージパース（南西方向からの鳥瞰）	【歳入】43、59ページ 【歳出】103、105ページ	
平成33年度に完成予定の新庁舎について、基本設計を策定しました。設計内容は市民の意見を反映させるため意見公聴会や説明会を開催し、基本設計案に関するパブリックコメントによる意見募集も実施しました。		

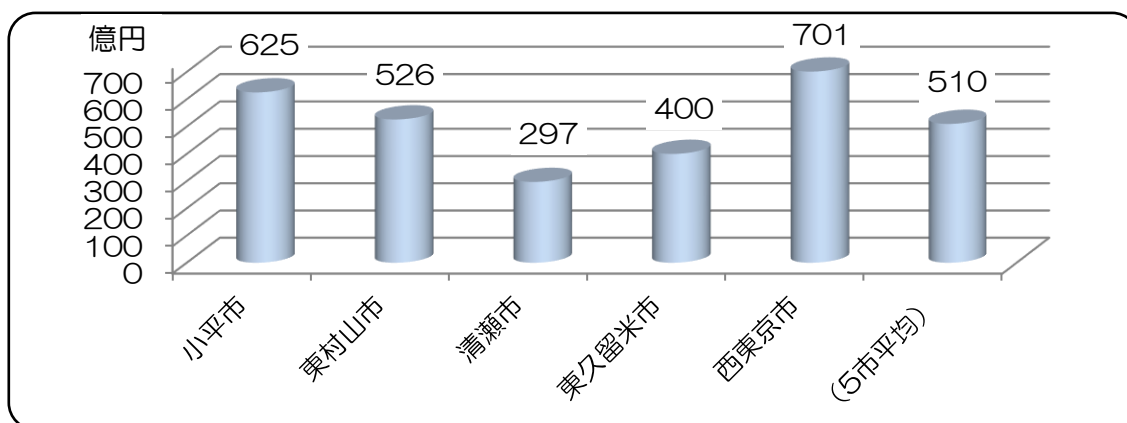


清瀬市の決算額は他の市と比べてどれくらいの規模なのでしょうか？



1～5 ページで見たとおり、清瀬市の平成 29 年度歳出決算額は 297 億 9,145 万円でした。この決算額は、市民の皆さんにとっては大きすぎる金額のため、イメージしづらいかもしれません。そこで、297 億 9,145 万円という決算額が、市としてどれほどの規模なのか、近隣 5 市と比べてみましょう。

【近隣 5 市との比較：決算額（歳出）】

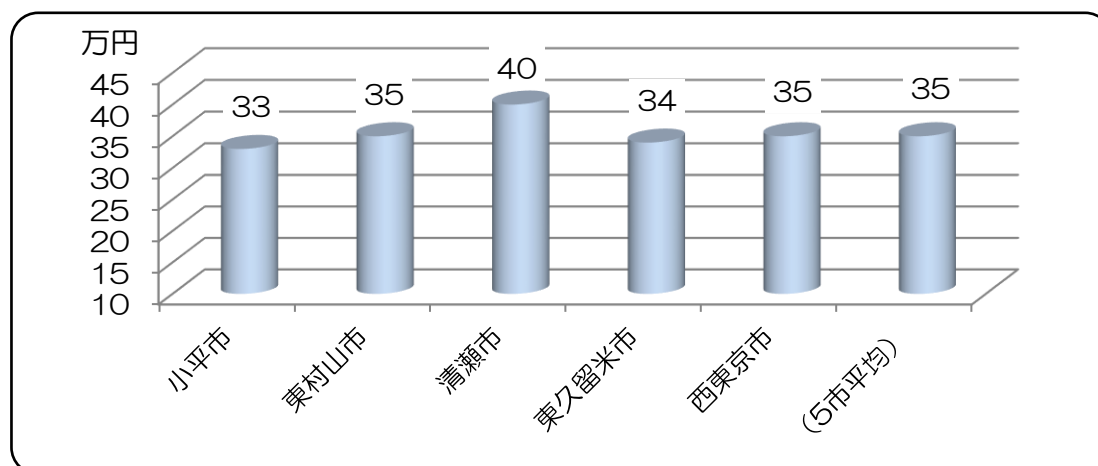


決算額（歳出）を比較すると、清瀬市の財政規模は近隣 5 市で最も低い水準です。

これは、他の市に比べて人口が少ないことと、面積が小さいためです。

では、清瀬市で行っている行政サービスの水準は、近隣市と比べて低いのでしょうか？

【近隣 5 市との比較：市民 1 人あたり決算額】



決算額（歳出）をそれぞれの人口(平成 30 年 1 月 1 日現在)で割ると、市民 1 人あたりに平均してどれだけ行政サービスを行ったかが分かります。

平成 29 年度については、清瀬市は市民 1 人あたり 40 万円の行政サービスを提供しており、近隣市のなかでも高い水準です。

積立金現在高の状況

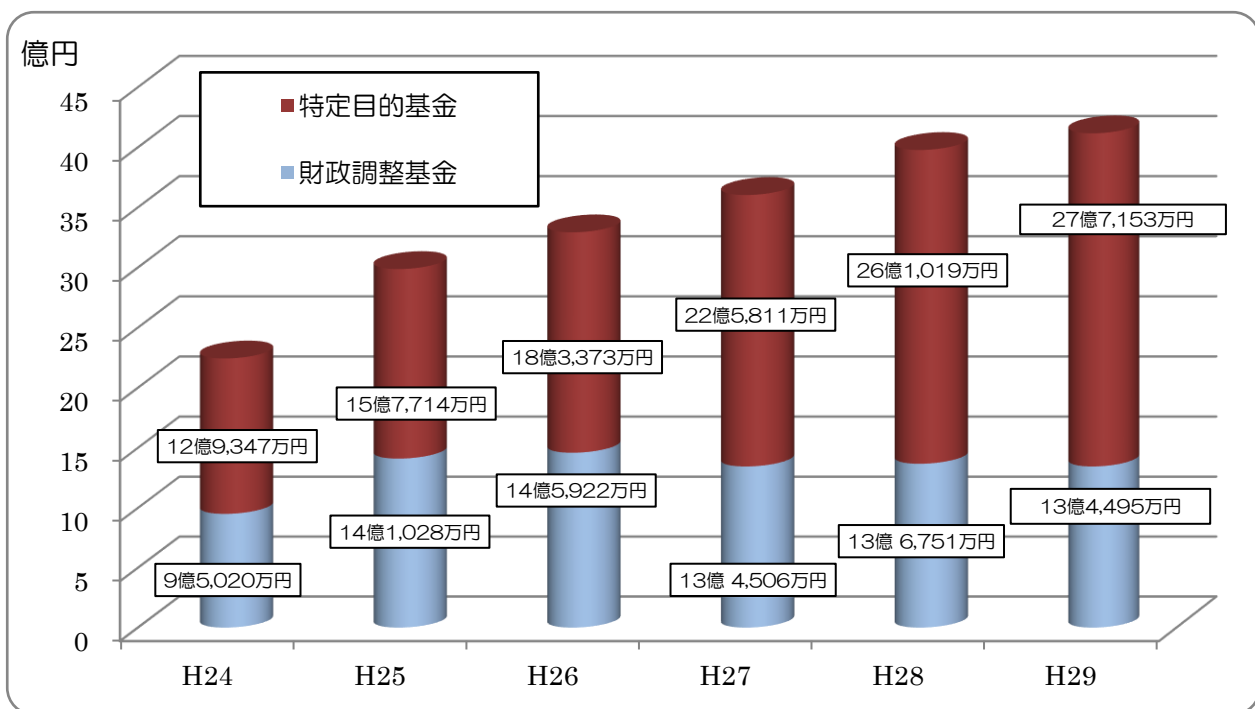


毎年たくさんのお金を使って道路や学校の整備、様々な行政サービスを提供していますが、清瀬市には貯金はあるのでしょうか？



市役所では、一般家庭における貯金にあたる「基金」を持っています。基金には、決算が黒字だったときに残ったお金を積み立てておき、お金が足りなくなったときに取り崩して使うための「**財政調整基金**」と、今後行う事業に使うために計画的に積み立てておく「**特定目的基金**」があります。特定目的基金には、庁舎や公共施設の整備に使うための「**公共施設整備基金**」や市内の雑木林や公園などの整備に使うための「**緑地保全基金**」、まちづくり応援寄附として頂いたお金を一時的に積み立てておく「**まちづくり応援基金**」などがあります。

【基金残高の推移】



上のグラフのうち、各年度の下側が財政調整基金です。残高の推移をみると、平成 24 年度に 9 億円台にまで減ったものの、行財政改革の推進により捻出された財源などを積み立てたことにより、平成 25 年度以降は 13 億円から 14 億円台を維持しています。

また、特定目的基金については、新庁舎建設や市内公共施設の整備、小学校の校舎の大規模改造事業などに備えるため、公共施設整備基金に平成 29 年度は 3 億 6,537 万円を積み立てたことから、27 億円を超える額となりました。

今後は、前述の通り公共施設の整備のほか、さらには年々膨らむ社会保障関係経費などの経常経費（市が任意に削減できない義務的経費（人件費・扶助費・公債費）などの毎年決まって支出されるお金）の増加が見込まれています。このようなことから、財政調整基金及び特定目的基金への積み立てを計画的に行う必要があります。

財政指標



清瀬市の財政状況は良いのでしょうか？それとも悪いのでしょうか？



清瀬市の財政状況を知るためには、様々な財政指標をみることで把握することが出来ます。そのなかでも財政状況を分析するのによく使われる「**経常収支比率**」と「**財政力指数**」から清瀬市の財政状況をみて行きましょう。

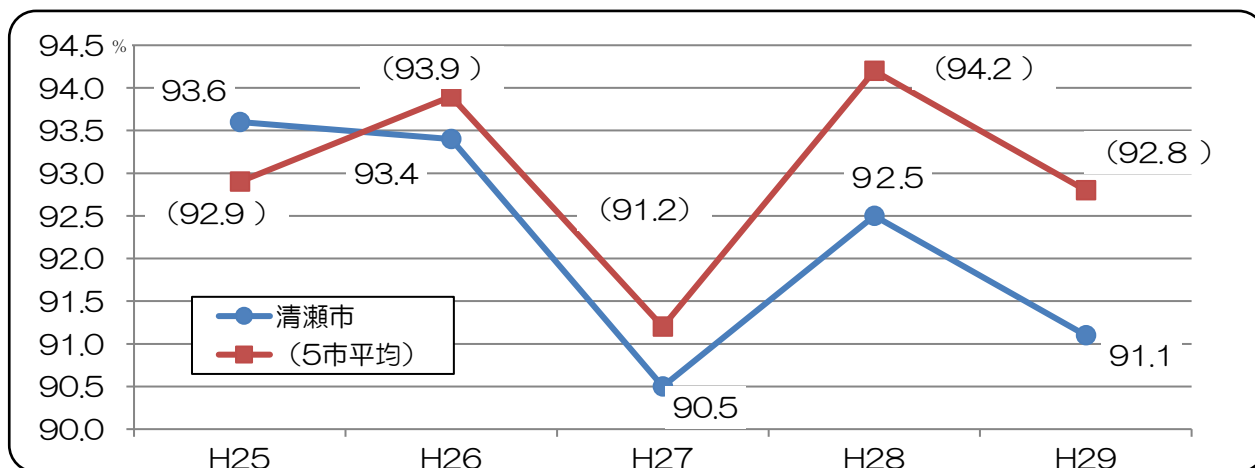
① 経常収支比率

経常収支比率は、市税など毎年決まって収入されるお金が扶助費や公債費など毎年必ず支払わなければならない経費にどれくらい使われているかを示しています。つまり、「自由に使えるお金が、どれだけ使い道を縛られているか」を意味します。一般的には 70～80%が適正水準とされています。

$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{経常経費に使った一般財源}^{\ast}}{\text{毎年収入が見込める一般財源}} \times 100$$

※ { 一般財源：市税や地方交付税など、市の判断でいかなる経費にも使うことができるお金
特定財源：国・都支出金や建設地方債など、特定の経費に使うことが義務付けられているお金

【近隣 5 市との比較：経常収支比率の推移】



清瀬市の経常収支比率は、平成 29 年度決算で 91.1%と前年度よりも 1.4 ポイント改善し、近隣 5 市平均と比較しても低い水準となっています。

平成 29 年度の 91.1%という経常収支比率を家計に例えると、30 万円の給料のうち、91.1%である 27 万 3,300 円を食費や家賃などの生活費に使っていることになり、自由に使えるのは残りの 2 万 6,700 円しかありません。

しかしながら、これは限りある収入の中で高い水準の生活を維持している結果でもあります。生活費を削減すれば家計は表面上改善するものの、生活水準は低下しかねません。自治体においても、経常経費の削減は行政サービスの低下につながる可能性がありますので、慎重な判断が求められています。

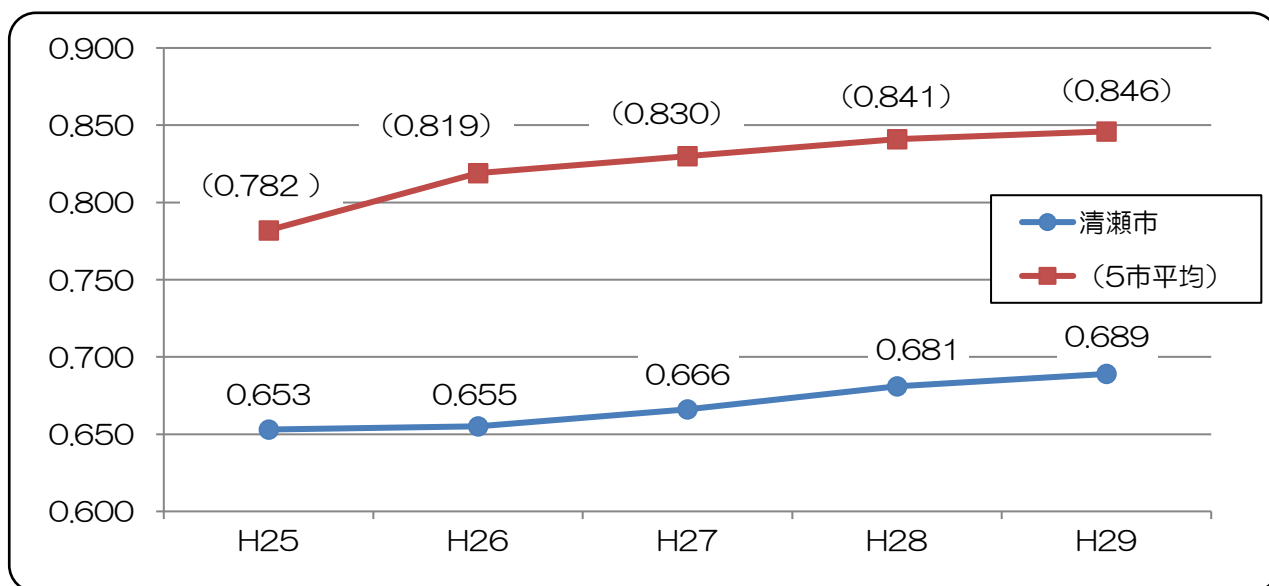
② 財政力指数

清瀬市が行っている行政サービスにかかるお金の一部は、国や都からの補助金で賄っていますが、清瀬市も市税等の一般財源で負担する必要があります。この清瀬市が負担すべき一般財源のうち、どれくらい独自で調達できているのかを示すのが財政力指数です。

$$\text{財政力指数} = \frac{\text{基準財政収入額（市が独自で調達できる一般財源）}}{\text{基準財政需要額（市が負担すべき一般財源）}}$$

例えば、市が独自で調達できる一般財源が 70 億円で、市が負担すべき一般財源が 100 億円の場合、財政力指数は 0.7 となります。財政力指数が 1 を割っているため、「財源が不足している団体」とされ、国から地方交付税（普通交付税）が交付されます。財政力指数が 1 を超えると、「財源が豊かな団体」とされ、普通交付税を受け取ることはできません。

【近隣 5 市との比較：財政力指数の推移】



※各年度の数値は、その年度を含む 3 年間の平均値です。

清瀬市の財政力指数は 0.6 程度で、国からの普通交付税により一般財源の不足分を補っています。特に近年は、高齢化などによる社会保障関係経費の増加が影響し、普通交付税に頼らざるを得ない傾向が強まっています。

普通交付税額の推移

年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
普通交付税額	39億797万円	38億5,936万円	37億1,690万円	36億1,747万円	37億4,439万円

ここまで経常収支比率、財政力指数をみてきましたが、清瀬市の指標はいずれも改善が必要な数値となっています。これからわかるとおり、決して清瀬市の財政状況は良いとは言えません。今後も、指標の改善を目指して行財政改革の推進など、より一層の努力をしていかなければなりません。

借金と将来負担



学校や道路などの整備にはたくさんのお金がかかりそうですが、市税や国、都からの補助金だけで足りるのでしょうか？

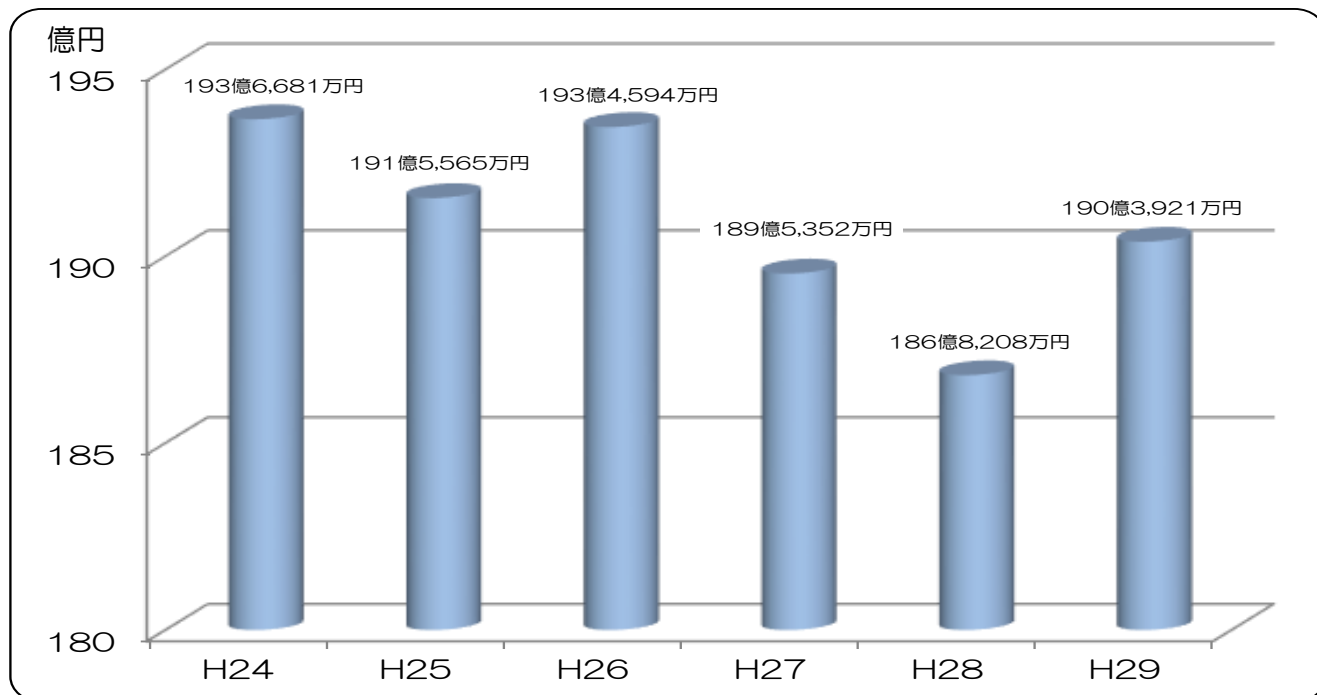


学校や道路などの整備には、たくさんのお金が必要となり、その年の税収だけでこれらの事業を行ってしまうと、他の事業を行うためのお金が不足してしまいます。そのため、借金をしてその年の負担を減らしています。

また、学校や道路は長期間にわたって利用されます。そのため、借金をして整備費を払い、翌年度以降の借金返済に市税を充てることで、将来の世代にも費用の一部を負担していただいています。「借金」には何かと悪いイメージが付きまといますが、市の借金である「地方債」には、年度間・世代間の負担調整という役目もあります。

清瀬市では、平成 29 年度に一般会計で 21 億円の借り入れをして、**18 億 9,931 万円**（うち元金 **17 億 4,287 万円**）の返済をしたことで、借金の残高は 190 億 3,921 万円になりました。元金の返済額よりも借入額が上回ったため、平成 29 年度の地方債残高は増加しました。

【一般会計の地方債残高の推移】



小中学校の校舎の耐震化などのため、近年の地方債残高は増加傾向にありましたが、未利用地を売却したお金を返済に充てたほか、市債の発行基準を設けるなど、地方債残高の縮減に努めてきました。

しかし、今後は新庁舎建設や市内公共施設の整備、小学校の校舎の大規模改造事業などに多額のお金が必要となり、その一部を借金によって賄うことが予定されているので、地方債の残高にはこれまで以上に気を配る必要があります。

赤字補てんの地方債

原則的に、市は公共施設や社会資本の整備のためにしか借金をすることができないと地方財政法で定められています。しかしながら、特定の条件付きで、不足した一般財源を補うために借金をしてもよいという特例が設けられています。そのなかでも、金額が大きいのが**臨時財政対策債**です。

これは国が普通交付税に必要なお金を確保できなくなったことから、普通交付税の一部を交付せず、代わりに市が借金をすることができるというもので、平成 13 年度から継続して行われています。

これは赤字補てんの地方債であり、社会問題となっている赤字国債と同じ性質のものです。

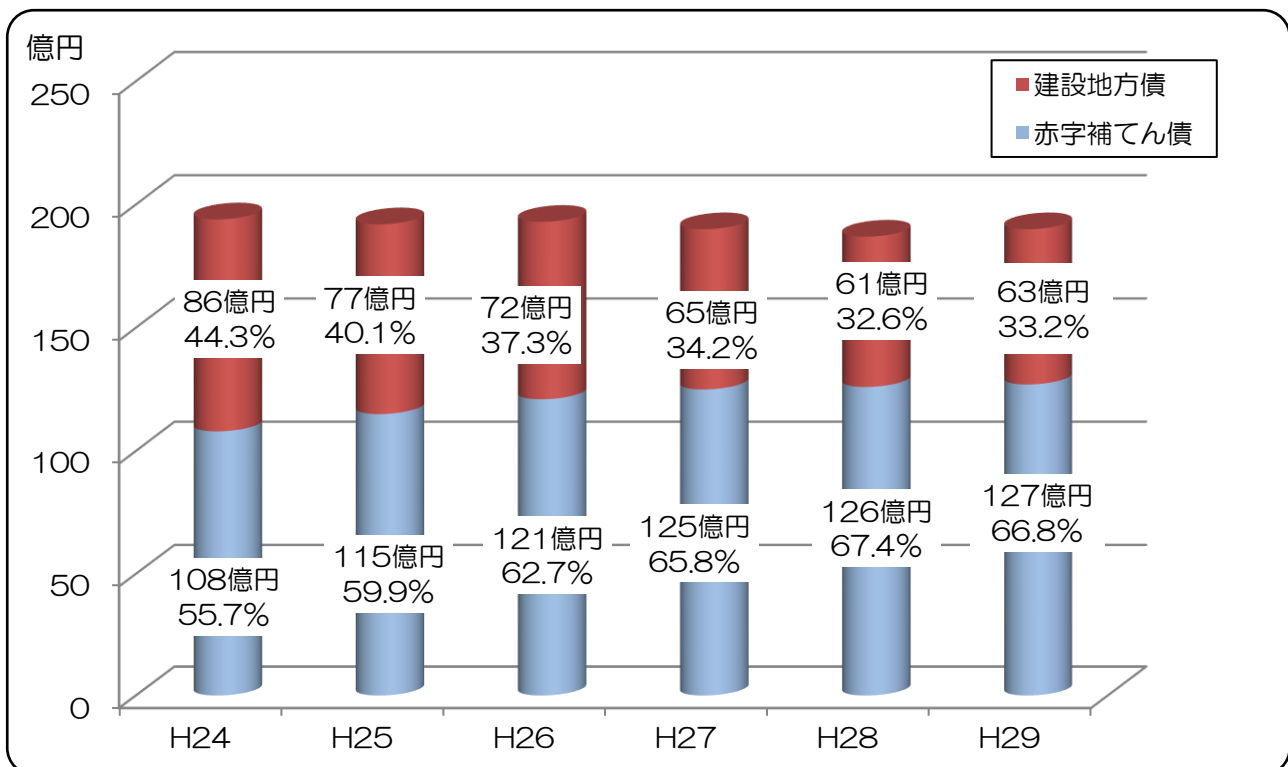
臨時財政対策債の借入額の推移

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
借 入 額	14億円	13億2,400万円	10億9,700万円	9億1,600万円	10億3,500万円

上の表のとおり、毎年多額の臨時財政対策債を借り続けています。

臨時財政対策債などの赤字補てん債は、社会資本の整備につながらない、その場しのぎの借金です。借り入れは抑制するべきではありますが、財政力指数が 0.6 程度しかない清瀬市では、独自で一般財源を用意することができないため、臨時財政対策債を活用しなければならない状況が続いています。

【建設地方債と赤字補てん債（臨時財政対策債を含む）の残高】



地方債残高の内訳をみると、特例措置であるはずの赤字補てん債の残高が建設地方債を上回り、今後もこの状況が続くことが予想されます。臨時財政対策債については、その返済金の全額が翌年度以降の普通交付税の算定で算入されることになっていますが、国の財源不足を地方の借金に転嫁する方法には問題があると清瀬市では考えています。

借金返済の負担率

市で行う借金は、公共施設や社会資本の整備に不可欠ですが、その返済金が大きくなりすぎると、財政運営は困難になります。そこで、**実質公債費比率**という指標を使い、収入に対する借金返済額の割合をチェックします。

【実質公債費比率の算出方法】

分子

【清瀬市が負担している公債費】
(地方交付税に算入されている公債費などは除く)

27年度 6.6億円
28年度 5.6億円
29年度 5.1億円

実質公債費比率の推移

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
5.1%	4.5%	4.4%	4.2%	4.1%

= 4.1%
(3カ年の率の平均)

分母

【清瀬市の収入規模】
(地方交付税に算入されている公債費などは除く)

27年度 137.5億円
28年度 137.8億円
29年度 139.4億円

注意すべき水準：25.0%
危険水準：35.0%

実質公債費比率は、25%を超えると要注意状態と見なされます。この比率は、3 か年の平均で求めます。清瀬市は昨年度に比べ 0.1 ポイント減少の 4.1%となっており、基準内に収まっています。

また、**将来負担比率**という指標を使い、将来負担すべき借金返済額の標準的な収入に対する割合をチェックします。

【将来負担比率の算出方法】

分子

【将来の公債費に充てる一般財源】
32.7億円

将来負担比率の推移

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
43.2%	37.8%	29.4%	23.7%	23.4%

= 23.4%

分母

【清瀬市の収入規模】
(地方交付税に算入されている公債費などは除く)
139.4 億円

注意すべき水準：350.0%

将来負担比率が 350%を超えると要注意状態にあると見なされます。清瀬市は 23.4%で基準内に収まっています。なお、将来負担比率は、公共施設整備基金の積み立てなど、将来負担の軽減につながる基金の増加などにより、減少傾向にあります。

人件費削減の取組

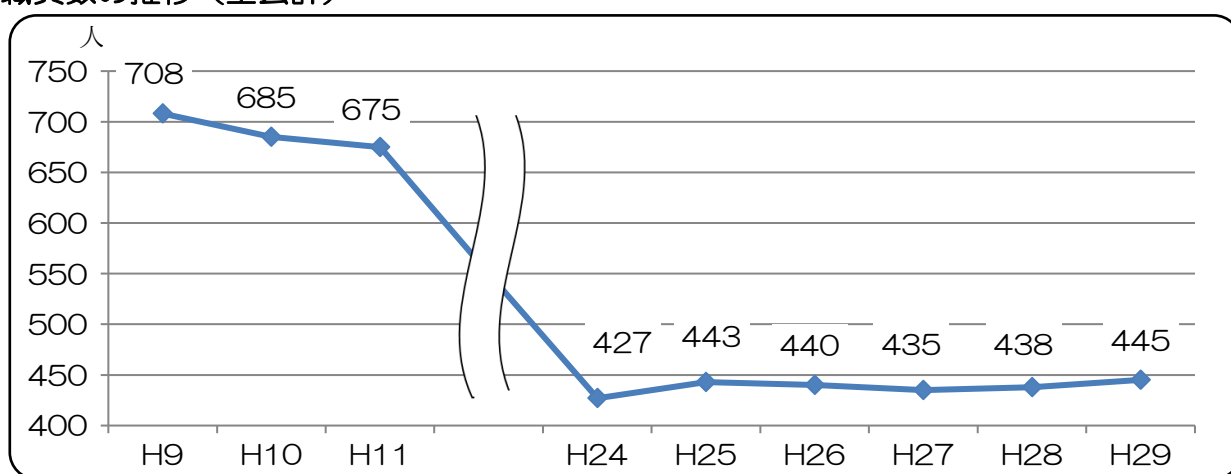


いろいろな財政指標をみると清瀬市の財政状況は厳しいようですが、財政状況を改善していくために取り組んでいることはありますか？



バブル崩壊後の厳しい経済状況により、清瀬市は行財政改革に取り組みました。そのひとつが職員数を減らすことであり、人件費の削減を推進してきました。平成 9 年度には 708 人の正規職員がいましたが、平成 29 年度には 445 人となり、これまでに 263 人の削減を行いました。

職員数の推移（全会計）

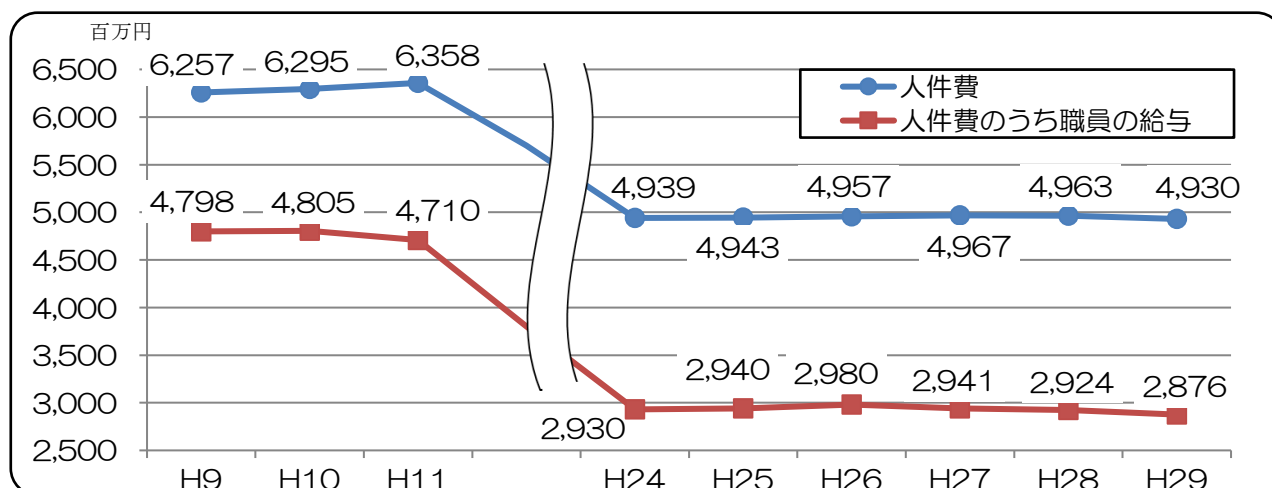


※職員数は各年度 4 月 1 日現在です。

※平成 27 年度からは教育長を除いた数値です。

この取り組みにより職員の給与や、議員の報酬、非常勤職員の報酬などの人件費は一番多かった平成 11 年度の 63 億 5,800 万円に対して、平成 29 年度は 49 億 3,000 万円であり、14 億 2,800 万円削減しています。1 年間に支払う職員の給与については、ピークであった平成 10 年の 48 億 500 万円に対して、平成 29 年度は 28 億 7,600 万円であり、19 億 2,900 万円削減しています。

人件費の推移（全会計）



『清瀬市のわかりやすい決算書』
～清瀬市のまちづくり報告書～
平成30年12月発行

清瀬市企画部財政課財政係

〒204-8511

東京都清瀬市中里 5-842

TEL 042-497-1810（直通）

TEL 042-492-5111（内線 222）